

(別記)

## 令和5年度南相木村農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本村の農業は高原野菜を中心とした野菜生産と花き生産が主体となっている。高原野菜は市場での評価が高く需要も多い。また、花きについても同様に需要が多い。生産者の所得向上のため、今後も野菜・花きの栽培面積を維持・拡大していく必要がある。

### 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本村で生産される作物は高い標高を生かした高原野菜と花きとなっている。それぞれ市場からの評価は高いため、葉物野菜及びブロッコリー、花きでは菊の栽培を推進していく。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

農地の集積・集約化を、農地利用最適化推進委員会を中心に推進し、効率的に生産できるよう支援を行う。園芸作物の他、地域の特産であるそばの作付けについても推進していく。

水路や畔等が整備されているかを点検し、水田の機能が失われていないか確認を行う。

長年、水稻作付けを行っていないため、多くの農業者が水稻機械・技術を保有していない、このような状況の中では、ブロックローテーション体系の構築を行っても、実施が伴わない状況となっている。

### 4 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

寒冷地に適した品目の選定を行い、安定した優良な米の生産を行う。

#### (2) 備蓄米

作付けなし

#### (3) 非主食用米

##### ア 飼料用米

作付けなし

##### イ 米粉用米

作付けなし

##### ウ 新市場開拓用米

作付けなし

##### エ WCS用稲

作付けなし

オ 加工用米  
作付けなし

(4) 麦、大豆、飼料作物  
作付けなし

(5) そば、なたね  
面積が小さい等条件の悪い水田にはそばの作付けを行い、栽培したそばを地域の特産品として活用する。

(6) 地力増進作物

土壌改良・地力回復に効果がある緑肥作物（エンバク・ライムギ・ヘアリーベッチ・緑肥用トウモロコシ・チャガラシ・ヒマワリ・レンゲ・マリーゴールド）の作付けを行ない、土づくりと畑地化を進めることにより、その後、転作作物の導入が円滑に行えるようにする。

5月～7月に播種を行い10月までにすき込みを行う。腐熟期間を得て翌年には販売目的の作物の作付けが出来るものとする。

(7) 高収益作物

本村のレタス・ハクサイ・ブロッコリーについては、1,000mを越える高原で栽培されており、歯ざわりと味が良く市場からの需要が高い。また菊についても高地で栽培するため色合いが良く日持ちするためこちらも市場からの需要が多い、これらの理由から今後も水田を有効に活用し、上記品目を主要品目として栽培の拡大を図る。

また、別紙作物一覧にある作物についても当村の重要な作物であり高収益であることから、維持・拡大を目指していく。

## 5 作物ごとの作付予定面積等 ~ 8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1		1		1	
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲						
加工用米						
麦						
大豆						
飼料作物						
・子実用とうもろこし						
そば	5.1		8.5		8.5	
なたね						
地力増進作物			1		1	
高収益作物	129		129		129	
・野菜	95		95		95	
・花き・花木	34		34		34	
・果樹						
・その他の高収益作物						
その他						
畑地化						

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	ハクサイ レタス ブロッコリー 菊	地域振興作物（重点作物）への助成	作付面積	(3年度) 7.8ha (4年度) 8.8ha	(5年度) 8.0ha
2	野菜、花き・花木 (別紙作物一覧参照)	販売目的の地域振興作物への助成	作付面積	(3年度) 4.9ha (4年度) 4.6ha	(5年度) 5.0ha
3	そば	そばの取組（地域の取組に応じた配分の対象分）	作付面積	(3年度) 8.4ha (4年度) 5.1ha	(5年度) 8.5ha
4	地力増進作物（別紙地力増進作物一覧表参照）	地力増進作物への助成	作付面積	(3年度) — (4年度) —	(5年度) 1.0ha (6年度) 1.0ha
5	地力増進作物（別紙地力増進作物一覧表参照）	地力増進作物の取組（地域の取組に応じた配分の対象分）	作付面積	(3年度) — (4年度) —	(5年度) 1.0ha (6年度) 1.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

## 7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：長野県

協議会名：南相木村農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	地域振興作物(重点作物)への助成	1	18,000	ハクサイ・レタス・ブロッコリー・菊	作付面積に応じて支援
2	販売目的の地域振興作物への助成	1	10,000	野菜、花き・花木(別紙作物一覧参照)	作付面積に応じて支援
3	そばの取組(地域の取組に応じた配分の対象分)	1	20,000	そば	作付面積に応じて支援
4	地力増進作物への助成	1	5,000	別紙	作付面積に応じて支援
5	地力増進作物の取組(地域の取組に応じた配分の対象分)	1	20,000	地力増進作物(別紙地力増進作物一覧参照)	作付面積に応じて支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載して下さい。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

別紙

## 8 産地交付金の活用方法の明細

### 1. 地域農業再生協議会名

南相木村農業再生協議会
-------------

### 2. 活用予定額の総括表

(単位:円)

協議会等名	配分枠 (A+B)		活用予定額
	当初配分 (A)	追加配分 (B)	
南相木村農業再生協議会	1,540,000	1,540,000	1,540,000

(注)追加配分が未定の段階にあつては、該当箇所を空欄により作成することとします。

### 3. 活用方法

配分枠

1,540,000円

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価① (円/10a)	面積 (a単位)※3													合計 ② ※5	所要額 ①×② (円)			
				戦略作物							新市場開拓用米	そば	なたね	地力増進作物	高収益作物				その他		
				麦	大豆	飼料作物	米粉用米	飼料用米	WCS用稲	加工用米					野菜	花き・花木				果樹	その他の高収益作物
1	地域振興作物(基幹作物)への助成	1	18,000											525	215				740	1,332,000	
2	販売目的の地域振興作物への助成	1	10,000											158					158	158,000	
3	そばの取組(地域の取組に応じた配分の対象分)	1	20,000																0	0	
4	地力増進作物への助成	1	5,000									100							100	50,000	
5	地力増進作物の取組(地域の取組に応じた配分の対象分)	1	20,000																0	0	
合計(基幹)※4			実面積									100	683	215				998	※6		
合計(二毛作)※4			実面積																1,540,000		

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。  
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 「面積」は、当初配分により支援を行う用途について記入し、追加配分により支援を行う用途については、追加配分額が未定の段階にあっては空欄としてください。

※4 「合計(基幹)の実面積」は、基幹作を対象とした設定の実面積を記入し、「合計(二毛作)の実面積」は、二毛作を対象とした設定の実面積を記入してください。

また、「合計②」欄は、基幹作、二毛作それぞれの実面積の合計を記入してください。

※5 ②の合計は、各用途の合計面積を記入してください。

※6 所要額欄の二重枠には、所要額の合計を記入してください。

(注)用途ごとに「産地交付金の活用方法の明細(個票)」を添付してください。

#### 4. 追加配分等を受けた場合の調整方法

県から配分された額に応じて以下の通り調整する。

1、追加配分のうち地域の取り組みに応じた配分額については、経営所得安定対策等実施要綱(別紙13)の3の(2)の③による様式11-11号にて報告した面積に配分する。

2、現地確認の結果が判明し計画面積との差が生じた場合には、現地確認後の実績面積とし、追加配分については、計画面積の増加及び減少に伴う所要額の増減額に対して配分を行い、配分後の残額については、以下の計算式により一律に単価を調整する。

① 配分後残額【(当初配分額 + 追加配分のうち追加配分枠) - 所要額計】 ÷ 所要額計 × 当初の単価 (円未満切捨て)

② ① + 当初の単価 = 追加配分後の単価

なお、上記の計算により上限単価を超える用途がある場合は、当該用途の単価を上限値にしたうえで残りの用途の単価調整を行う。

3、県内調整等の結果、さらに配分があった場合は、上記2の単価調整方法に準じて単価調整を行う。

#### 5. 所要額が配分枠を超過した場合の調整方法

1、追加配分のうち、地域の取り組みに応じた配分枠の調整

各用途ごとの所要額の確定後、余剰分は県計画の調整方法に基づき流用を行う。

また、用途ごとの所要額が配分枠を上回る場合は、県計画に基づく調整方法により配分された額を加算して算定する。

県による調整後も所要額が配分枠を超える場合は以下の通り単価を調整する。

① 実績面積が計画面積(様式11-11号報告)以内の用途は単価変更しない。

② 単価調整係数(小数第5位以下切り捨て) = (①の実績額を除く配分額 + 県による調整額) ÷ ①の実績額を除く所要額

③ 調整後の単価(円未満切り捨て) = ①以外の各用途の交付単価 × 単価調整係数

2、当初配分枠 + 追加配分のうち追加配分額の調整

(1) 所要額が配分枠を下回る場合は県計画の調整方法に流用する。

(2) 所要額が配分枠を超過した場合、県計画に基づく調整方法により配分された額を加算して算定する。

(3) 県による調整後も所要額が配分枠を超過する場合は、以下により単価調整を行う。

① 単価調整係数(小数第5位以下切り捨て) = (当初配分額(追加配分を含む) + 県による調整額) ÷ 所要額

② 調整後の単価(円未満切り捨て) = 各用途の交付単価 × 単価調整係数

#### 6. 高収益作物について

注1 産地交付金で支援する作物のうち、高収益作物に該当する作物名(野菜、花き・花木、果樹除く)を記載してください。

注2 収益性のわかるデータを添付してください。

### 産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	南相木村農業再生協議会	整理番号	1			
用途名	地域振興作物(重点作物)への助成					
対象作物	基幹作物:白菜・レタス・ブロッコリー・菊					
単 価	18,000円/10a （2回目の配分額に応じて25,000円/10aを上限として単価を増額調整する。）					
課 題	<p>高原野菜の産地として、需要のある高原野菜の栽培面積を維持・拡大していく必要がある。</p> <p>【2022年度の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度目標の達成状況 達成度110%</li> <li>・達成状況に対する評価 2022年度目標達成。支援効果は大きい。</li> </ul> <p>【2023年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点作物は、引き続き新規就農者でも比較的取り組みやすい、ブロッコリーと菊の作付け面積増を目指す。</li> </ul>					
目 標			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	作付面積	目標	10.5ha	7.9ha	8.0ha	8.0ha
		実績	7.8ha	7.8ha	8.8ha	—
内 容	重点作物を作付けする取組を支援する。					
具体的要件	<p>①助成対象者 販売目的で対象作物を生産する販売農家及び集落営農とする。</p> <p>②助成対象水田 経営所得安定対策等実施要綱別紙1に規定する助成対象水田のうち当該年度において対象作物を通常の栽培方法により作付けしている水田とする。</p>					
取組の 確認方法	<p>①助成対象者であることの確認 ・営農計画書により確認を実施する。</p> <p>②助成対象農地であることの確認 ・営農計画書、共済細目書、農地台帳等の書類によって確認を実施する。</p> <p>③対象作物の作付けが行われたことの確認 ・現地確認により行う。</p>					
成果等の 確認方法	<p>支払い対象面積の集計 令和5年8月までに支払い対象面積の集計により確認</p>					
備考	整理番号2と作物は重複しない。					

- ※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。
- ※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。
- ※ 令和5年度から新規に設定した目標については、令和2年度～4年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	南相木村農業再生協議会		整理番号	2		
用途名	販売目的の地域振興作物への助成					
対象作物	野菜、花き・花木(別紙作物一覧参照)					
単 価	10,000円/10a (2回目の配分額に応じて20,000円/10aを上限として単価を増額調整する。)					
課 題	<p>現在栽培されている販売目的の作物は、高収益の作物のため、今後も維持・拡大する必要がある。</p> <p>【2022年度の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度目標の達成状況 達成度93.9% 離農もなく、例年並みの面積が作付けされた。</li> <li>・達成状況に対する評価 実績面積はほぼ横ばい。支援効果は大きい。</li> </ul> <p>【2022年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進んでいるが、新たな担い手が確保できている。引き続き担い手の確保を進め、取り組みの効果を上げる。</li> </ul>					
目 標			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	作付面積	目標	4.6ha	4.9ha	4.9ha	5.0ha
		実績	4.9ha	4.9ha	4.6ha	—
内 容	販売目的作物を作付けする取組を支援する。					
具体的要件	<p>現在栽培されている販売目的の作物は、高収益の作物のため、今後も維持・拡大する必要がある。</p> <p>①助成対象者 販売目的で対象作物を生産する販売農家及び集落営農とする。</p> <p>②助成対象水田 経営所得安定対策等実施要綱別紙1に規定する助成対象水田のうち当該年度において対象作物を通常の栽培方法により作付けしている水田とする。</p>					
取組の 確認方法	<p>①助成対象者であることの確認 ・営農計画書により確認を実施する。</p> <p>②助成対象農地であることの確認 ・営農計画書、共済細目書、農地台帳等の書類によって確認を実施する。</p> <p>③対象作物の作付けが行われたことの確認 ・現地確認により行う。</p> <p>④出荷・販売していることの確認 ・出荷契約、出荷伝票等により確認する。</p>					
成果等の 確認方法	<p>支払い対象面積の集計 令和5年8月までに支払い対象面積の集計により確認</p>					
備考	整理番号1と作物は重複しない。					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和5年度から新規に設定した目標については、令和2年度～4年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	南相木村農業再生協議会		整理番号	3		
用途名	そばの取組(地域の取組に応じた配分の対象分)					
対象作物	そば					
単 価	20,000円/10a					
課 題	<p>南相木村はそばの固有の在来種があり、地元で生食で消費されているほか、乾そばや焼酎の原料として使われている。今後も需要に応えるため、そばの栽培面積を維持・拡大して行く必要がある。</p> <p>【2022年度の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度目標の達成状況 達成度60% 耕作者の減少により作付面積が減ってしまった。</li> <li>・達成状況に対する評価 実績面積は減ったが、支援効果は大きい。</li> </ul> <p>【2023年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そば生産組合員の生産量が減少している。生産者の確保に努め、面積の維持を目指す。また、そば専用肥料使用の開発をそば生産組合で実施し、栽培技術の向上を図る。</li> </ul>					
目 標	作付面積	目標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		実績	8.0ha	8.4ha	8.5ha	8.5ha
			8.4ha	8.4ha	5.1ha	—
内 容	生産者の生産意欲向上の為、対象水田にそばを作付けした助成対象者に対し、作付面積に応じて助成する。					
具体的要件	<p>助成対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営所得安定対策等実施要綱別紙13の3の(2)の地域の取組に応じた配分額の算定手順のうちそば・なたねの作付けに係る手続きが行われている者とする。</li> </ul> <p>取組要件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営所得安定対策等実施要綱別紙13の3の(2)の③の「そば・なたねの作付け」に基づき、農協等と実需者との間で締結された販売契約に基づく農協等との出荷契約又は実需者等との販売契約を締結していること。</li> </ul> <p>※自家加工については、経営所得安定対策等実施要綱様式第9-4号「畑作物の直接支払交付金に係る自家加工販売計画書兼出荷・販売実績報告書」を、直売所での販売については、直売所と取引契約を締結又は直売所の名称、所在地、連絡先、対象作物の年間販売予定数量などを記載した計画</p>					
取組の確認方法	<p>○地域協議会にて以下の書類 及び現地確認により確認する。</p> <p>営農計画書(交付申請書)、出荷・販売契約書、畑作物の自家加工販売計画書、直売所への販売計画書、販売伝票、自家加工台帳、作業日誌、その他必要に応じて地域協議会が提出を求める書類</p>					
成果等の確認方法	<p>支払い対象面積の集計</p> <p>令和5年8月までに支払い対象面積の集計により確認</p>					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和5年度から新規に設定した目標については、令和2年度～4年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	南相木村農業再生協議会				整理番号	4
使途名	地力増進作物への助成					
対象作物	地力増進作物(別紙地力増進作物一覧参照)					
単 価	5,000円/10a以内					
課 題	<p>土壌改良・地力回復に効果がある地力増進作物の作付けを行ない、土づくりと畑地化を進めることにより、その後、転作作物の導入が円滑に行えるようにする。          令和4年度の申請者はなかったが、遊休農地を防ぐためにも引き続き地力増進作物を進めて行く。</p>					
目 標	拡大面積		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
		目標	1.0ha	1.0ha	1.0ha	
		実績	—	—	—	
内 容	地力増進作物作付け者に対して、作付面積に応じて助成する。					
具体的要件	<p>助成対象者          ・農地維持のため、対象作物を地力維持のため栽培した者。          取組の内容          ・経営所得安定対策等実施要綱別紙13の3の(1)の④に基づく対象作物の作付面積の合計面積に交付する。なお、農地維持のため当初より地力増進作物を作付けされた場合は、当初配分に該当とするものとする。</p>					
取組の 確認方法	<p>地域協議会にて以下の書類 及び現地確認により確認する。          交付申請書、営農計画書、作業日誌、出荷販売契約書、出荷販売伝票、令和5年度交付申請書、営農計画書、現地確認結果記録書、交付決定通知書、その他地域協議会が提出を求める書類</p>					
成果等の 確認方法	<p>支払い対象面積の集計          令和5年8月までに支払い対象面積の集計により確認</p>					
備考						

- ※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。
- ※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。
- ※ 令和5年度から新規に設定した目標については、令和2年度～4年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	南相木村農業再生協議会			整理番号	5
用途名	地力増進作物の取組(地域の取組に応じた配分の対象分)				
対象作物	地力増進作物(別紙地力増進作物一覧参照)				
単 価	20,000円/10a以内				
課 題	土壌改良・地力回復に効果がある地力増進作物の作付けを行ない、土づくりと畑地化を進めることにより、その後、転作作物の導入が円滑に行えるようにする。				
目 標	拡大面積	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
		目標	1.0ha	1.0ha	1.0ha
		実績	-	-	-
内 容	<p>対象水田に地力増進作物を作付けし、翌年に野菜、花き・花木(別紙作物一覧参照)にある作物を作付けする対象者に対し、作付面積に応じて助成する。                  対象年は当該年度のみとする。                  5月～7月に播種をし、10月までにすき込みを行う。腐熟期間を得て翌年には販売目的の作物の作付けが出来るものとする。</p>				
具体的要件	<p>助成対象者                  ・農地維持のため、対象作物を地力維持のため栽培し翌年野菜の作付けを行なう者。                  取組の内容                  ・経営所得安定対策等実施要綱別紙13の3の(1)の④に基づく対象作物の作付面積の合計面積に交付する。</p>				
取組の 確認方法	<p>地域協議会にて以下の書類 及び現地確認により確認する。                  交付申請書、営農計画書、作業日誌、出荷販売契約書、出荷販売伝票、令和5年度交付申請書、営農計画書、現地確認結果記録書、交付決定通知書、その他地域協議会が提出を求める書類</p>				
成果等の 確認方法	<p>支払い対象面積の集計                  令和5年8月までに支払い対象面積の集計により確認</p>				
備考					

- ※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。
- ※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。
- ※ 令和5年度から新規に設定した目標については、令和2年度～4年度の目標の記載は不要です。



	作物名		作物名		作物名
野菜	アスパラガス	花き	アザミ	花き	ブプレウラム
野菜	ブロッコリー	花き	アスター	花き	フリージア
野菜	加工用トマト	花き	アーティチョーク	花き	ベビーコーン
野菜	きゅうり	花き	アネモネ	花き	ベニバナ
野菜	トマト	花き	アリウム	花き	ヘリクリサム
野菜	なす	花き	アルストロメリア	花き	ヘレニューム
野菜	ピーマン	花き	アヤメ	花き	弁慶草
野菜	かぼちゃ	花き	イブニングスター	花き	ほうき草
野菜	イチゴ	花き	エキナセア	花き	ほおずき
野菜	スイカ	花き	エキノプス	花き	ホトギス
野菜	メロン	花き	エリンジューム	花き	マトリカリア
野菜	キャベツ	花き	オダマキ	花き	マリーゴールド
野菜	みぶな	花き	オーニソガラム	花き	ミシマサイコ
野菜	はくさい	花き	おみなえし	花き	メジューム
野菜	ほうれんそう	花き	貝細工	花き	モルセラ
野菜	ねぎ	花き	カキツバタ	花き	矢車草
野菜	たまねぎ	花き	かすみ草	花き	ユリ
野菜	レタス	花き	カーネーション	花き	ラークスパー
野菜	だいこん	花き	ケイカ	花き	ラベンダー
野菜	にんじん	花き	カラー	花き	ラナンキュラス
野菜	さといも	花き	観賞用すぐり	花き	リアトリス
野菜	れんこん	花き	カンパニユラ	花き	リオン
野菜	しょうが	花き	キキョウ	花き	リンドウ
野菜	じゃがいも	花き	キク	花き	ルドベキア
野菜	エンダイブ	花き	金魚草	花き	ルピナス
野菜	ブロッコリー	花き	クジャクソウ	花き	レースフラワー
野菜	カリフラワー	花き	グラジオラス	花き	れんげ
野菜	ケール	花き	クリスマスローズ	花き	ワレモコウ
野菜	小松菜	花き	ケイトウ	花き	はず
野菜	山東菜	花き	コスモス	花き	菜の花
野菜	春菊	花き	ササリンドウ	花き	ラン
野菜	セルリー	花き	サマーチェリー	花き	アンゲロニア
野菜	タアサイ	花き	サンダーソニア	花き	トレニア
野菜	チンゲンサイ	花き	シクラメン	花き	ネメシア
野菜	つけ菜類	花き	ジギタリス	花き	パンジー
野菜	野沢菜	花き	菊	花き	ペチュニア
野菜	パセリ	花き	女郎花	花き	シンフォリカルフォス
野菜	みずな	花き	スイセン	花き	スプレー菊
野菜	モロヘイヤ	花き	スイートピー	花き	しゃくやく
野菜	オクラ	花き	スカビオサ	花木	アジサイ
野菜	金糸瓜	花き	スターチス	花木	イチイ
野菜	ゴーヤ	花き	ストック	花木	ウメモドキ
野菜	白ウリ	花き	スモークグラス	花木	桜
野菜	スイートコーン	花き	セロシヤ	花木	スモークツリー
野菜	ズッキーニ	花き	千日紅	花木	セツカヤナギ
野菜	トウガン	花き	ソリダコ	花木	ツルウメモドキ
野菜	ホンウリ	花き	ソリダスター	花木	南天
野菜	ゆうがお	花き	ダイアンサス	花木	ビブルナム
野菜	かぶ	花き	ダリア	花木	ヒペリカム
野菜	菊芋	花き	チーゼル	花木	ボケ
野菜	ごぼう	花き	チューリップ	花木	紫式部
野菜	さつまいも	花き	デルフィニウム	花木	ユーカリ
野菜	とうのいも	花き	トルコギキョウ	花木	レンギョウ
野菜	ながいも	花き	ナデシコ		
野菜	みょうが	花き	バラ		
野菜	やまいも	花き	ひまわり		
野菜	ヤーコン	花き	姫ひまわり		
野菜	かんしょ	花き	ヒメユリ		
野菜	やまごぼう	花き	日扇		
野菜	ささげ	花き	風船とうわた		
野菜	さやいんげん	花き	フサスグリ		
野菜	にんにく				

## 南相木村農業再生協議会員名簿

職 名	氏 名	備 考
会 長	菊池 豊	農業委員会長
副会長	篠原康彦	J A 南相木支所長
監 事	依田 透	農業委員会長職務代理
監 事	浅沼 明	長野県農業共済組合 佐久支所
委 員	中田千幸	農 業 委 員
	中田征洋	〃
	田村明人	〃
	倉根和幸	〃
	中島義房	〃
	井出忠一	〃
	中島博英	〃
	菊原秀長	〃
	西澤示郎	農地利用最適化推進委員
	中島吉永	〃
	中島良一	南相木村そば生産組合長
	菊原秀長	J A 南相木支所野菜部会長
	高橋洋一	J A 南相木支所 花卉部長会長
	菊池さち江	J A 南相木支所 女性部長
	二井谷収司	J A 南相木支所 青年部長
	依田克美	南相木村故郷ふれあい公社
	田中真延	佐久農業農村支援センター小海支所
事務局長	中島武彦	南相木村
事 務 局	井出宗次	J A 南相木支所営農センター
〃	中島徳充	南相木村